

2005年2月2日

各位

日本ゼオン、 高岡で精密光学研究所およびゼオノアフィルム第5棟竣工

日本ゼオン(社長 古河直純)は、2月2日、高岡工場(富山県高岡市)で精密光学研究所の竣工式を行った。同時にゼオンの100%子会社である(株)オプテス(社長 山崎正宏)高岡工場(富山県高岡市)で液晶ディスプレイ(LCD)用光学フィルム(製品名 ゼオノアフィルム[®])第5棟(第二次増強設備)の竣工式を行った。

精密光学研究所は、これまで神奈川県川崎市の総合開発センター内にあった精密加工研究機能の大部分を高岡に移転するものである。これにより、カメラ、DVD、携帯電話、液晶テレビ、パソコン、ゲーム機などに使用される各種光学フィルム、レンズ、プリズム、拡散板などの光学製品の設計、開発をおこなう研究開発機能と生産機能を一体化することにより相互の対話を促進し、より一層開発のスピードアップを図るものである。

同時に精密加工における生産設備の改造など、今後競合が厳しくなる生産技術のブラックボックス化を図るとともに高品質精密光学製品の生産技術、製造コストのさらなる削減技術の開発を図るものである。

当社は川崎市の総合開発センター内に独創的技術の研究開発を強化・促進する為、次世代研究棟10号館を建設中であり、両研究所は連携をとりながら次世代事業創出を図ってゆく。

ゼオノアフィルム[®]の能力増強は、販売が順調に増大していること、および液晶テレビを中心に液晶フラットパネルが急速に市場を拡大していることに対応するものである。既存の生産能力1,000万平方メートル/年が1,500万平方メートル/年に増強された。

当社は、熱可塑性高機能透明樹脂シクロオレフィンポリマー(COP;製品名 ZEONEX[®](ゼオネックス)、ZEONOR[®](ゼオノア))およびCOP精密加工品から成る高機能樹脂事業を当社の今後の成長の柱の一つとしており、近年、積極的に開発・設備投資を行っている。

昨年10月には位相差フィルム原反(既存製品)に加え、4種の新ゼオノアフィルムを開発し、発表した。この新ゼオノアフィルムは(1)位相差機能・偏光板保護機能を兼ねる。(2)ロールツーロールでの偏光板製造が可能。(3)画面の安定性向上に寄与する等の特長を持ち、次世代大型平板ディスプレイに要求されている機能を満足させる新製品である。

また、水島におけるCOP生産設備は2004年に生産能力10,000トン/年への倍増を実施したが、2005年には更に生産能力を15,000トン/年に引き上げる決定をしている。

今後とも、需要動向を見ながら各種製品の生産能力増強を行うとともに、新製品開発に注力していく。

「補足説明」

1.シクロオレフィンポリマー(COPと略す)

当社は、ナフサからエチレン、プロピレンを製造する際に副生されるC5留分の総合利用を推進しており、COPはC5留分を抽出分離して製造するジシクロペンタジエンが原料。当社が1990年に世界に先駆けて独自に開発、上市したCOPの高級グレードである「ZEONEX[®](ゼオネックス)」は、透明性樹脂の中でも吸水性が極めて低く、加熱溶融時に流れやすいため精密成型性が良く、また比重が小さいなどの特性を持つ。さらに本樹脂は高透明性や低複屈折性などの優れた光学特性を有しており、カメラ付き携帯電話やデジタルカメラ・コンパクトカメラのレンズ・プリズム、OA機器のピックアップレンズなど光学用途、CDやMD、DVDなどの光ディスク用途、その他の分野で使用されている。なお「ZEONEX[®](ゼオネックス)」は1995年度日本化学会賞を受賞している。

また当社は1998年に、高透明性を維持し、耐衝撃性と耐熱性を改良したCOPの汎用グレードである「ZEONOR[®](ゼオノア)」を上市した。液晶フラットパネルディスプレイ用導光板・拡散板、



液晶フラットパネルディスプレイ用光学フィルム、自動車ヘッドランプのエクステンション、食品用容器、医薬品分野の容器や包装材などに幅広く採用されている。

「ゼオノアフィルム®」は 2003 年度ディスプレイ・オブ・ザ・イヤー賞を受賞している。

お問い合わせ先

日本ゼオン株式会社

広報室

電話 03-3216-2747

以上

